

八ヶ岳～天気晴朗ナレド風強シ～

【報告者】〇森

【日時】2017年12月28日～30日 【天候】晴れ

【参加者】A屋・I橋・I藤・〇森

《コースタイム》

12/27 18:00 福岡IC発～

12/28 10:00 美濃戸口～11:00 やまのこ村～13:00 赤岳鉱泉

12/29 07:45 テン場発～08:25 行者小屋～文三郎尾根～10:25 赤岳山頂
～11:00 赤岳展望荘～12:30 行者小屋～13:00 赤岳鉱泉

12/30 08:30 テン場発～09:00 中山展望台～09:30 行者小屋～11:00 南沢小滝(アイスクライミング)～15:00 美濃戸口

◇12月27日～28日

年末山行で日程を組んだ12月28日から30日までの塩見岳を含む山岳地帯の天候は、サイトにより多少の違いはあるものの、概ね「天気晴朗ナレド風強シ」の予報。

往路途上、天気予報サイトとにらめっこしながら、山行ルートの検討を続ける。ギリギリまで悩んだが、平成28年末の仙丈ヶ岳山行で、やはり強風により敗退を喫した事や、本命である塩見岳と比較して入山者やルートの選択肢が多く、少しでも登頂の可能性が見込まれる事から、代替ルートの南八ヶ岳への転進を決定。赤岳鉱泉をベースとして、登頂ルートの候補を赤岳山頂ピストンとバリエーションルートである阿弥陀岳北稜の2本に絞り込んだ。



途中、私が忘れたWロープを購入するために諏訪市内の山道具屋さんに立ち寄ったりしながらも10時前には美濃戸口に到着。

28日はまだ平日のためか、駐車場の車は疎らであった。凍結した車道を転倒しないよう、そろそろと進み、単調な林道歩きをこなすこと約3時間。ようやく今回の山行のベースキャンプとなる赤

岳鉱泉に到着した。テントを張った後、山小屋にてしばし作戦会議。翌29日に文三郎尾根から赤岳山頂に至り地蔵尾根を下降するルートを、風がやや弱まる予報の30日に阿弥陀岳北稜を登ることとした。

テントに戻り、食担の I 藤さんが準備してくれた洋風おせちの定番食材であるテリーヌとバターたっぷりペミカン豚汁カレーに舌鼓を打つ。この日は前夜の寝不足も手伝い、19 時頃までにはシュラフに潜り込んだ。

◇12月29日

5時20分起床。朝食はバターとひき肉がたっぷり入ったおじや。美味濃厚かつハイカロリーな朝食で体が一気に温まる。天候は概ね晴れの模様。準備を整え、7時45分に赤岳鉱泉を出発。本日は文三郎尾根を登って赤岳山頂に至り、地蔵尾根を下降する予定である。前進基地である行者小屋からは、阿弥陀岳から中岳、赤岳、横岳、大同心、小同心、硫黄岳まで、南八ヶ岳の峰々を一望することが出来、弥が上にもテンションが高まる。行者小屋は一般ルートのみならず様々なバリエーションルートの発着点になっているため、冬山ハイカー装備のソロと思しき女性から、登攀用具で身を固めたクライマーまで、幅広い登山者が集っていた。



家庭の事情などでしばらく山から足が遠退いていた私にとっては、今回が4年半ぶりの冬山であり、かつ、ほぼ3,000mの高山である。今回の山行にはそれなりにトレーニングを積んで臨んだつもりではあったが、自分が想像していた以上に息が切れ、体が重い。体力の衰えを感じる今日この頃である。

脈の乱れに喘ぎながらも樹林帯を抜け、稜線に出ると北岳や仙丈ヶ岳をはじめとする南アルプスの峰々が望め、遠くには雲上に顔を出す富士山も見える。絶景に力を貰い、強風に曝されながらも岩稜を詰め上がり、約2時間で赤岳山頂に到着。強風極寒にも関わらず山頂は多くの登山者で賑わっていた。動いていないと余りにも寒いため、記念撮影後、直ちに下山を開始したが、寒さに耐え切れず地蔵尾根の手前にある赤岳展望荘にてしばし休憩。小屋



内の情報掲示板に記載された気温は、最低・最高ともにマイナス15℃になっている。どおりで寒い筈だ。各々ホットコーヒーやお汁粉で体を温め、文三郎尾根よりもやや急峻な地蔵尾根を下り、昼過ぎにベースキャンプに辿り着いた。日も高く体力的にも余裕があったので、赤岳鉱泉のアイスキャンデーでアイスクライミングをやってみようと申し込むも9.4mm以上のシングルロープ以外

は駄目と素気無く断られた。小屋内で得た情報では翌日も強風は止まず、当初目論んだ阿弥陀岳北稜は厳しい模様。全員で検討した結果、行者小屋から南沢を下る途中にある南沢小滝でアイスクライミングを行い、下山することにした。今日の夕食は、バターペミカンカレー。コクがあり濃厚で最高に美味い。おいしい夕食のおかげで体が暖まり、直ぐにでも寝付けそうだったが、私は軽度の高山病になっていたためか脈が乱れ、殆ど寝ることが出来なかった。

◇12月30日

隣に張られたテントの関西から来たと思われるパーティーは早々と起き出して装備を固め、4時過ぎにはベースキャンプを発って行った。時間的に余裕がある我々は5時過ぎにゆっくり起き出し、濃厚なバターペミカン(2日間朝夕の4食でバター1kg!)を堪能した後、8時半頃赤岳鉱泉を後にした。空は澄み渡っているが、稜線を見上げると雪煙が舞っており、風は昨日よりも強そう



だ。途中行者小屋の手前にある中山展望台へ立ち寄る。そこは、行者小屋からよりも南八ヶ岳の峰々がクリアに見渡せる絶好のビュースポットであった。今後同地を訪れる予定がある登山者には強くお勧めしたい。

行者小屋から南沢を下降すること約1時間半。左手の谷筋を5分程度登ると南沢小滝が現れる。初心者向けのゲレンデとして人気であるという評判どおり、幅約10m高さ約8m程



度の小滝には、我々以外にも3パーティー程のクライマーが取りついていた。滝を左岸から巻き上がり、滝頭の立ち木にスリングを掛けトップロープを設定。ちゃんとしたバイルはA屋さんが持参した1本のみ。ピッケルとバイル、縦走用アイゼンのおよそアイスクライミングをするとは思えない急拵えの装備ではあったが、それぞれで

なんちゃってアイスクライミングを楽しむことは出来た。1時間半程度楽しんだ後、南沢を下山。15時頃に発着点の美濃戸口に到着した。

【総括】

今回、塩見岳の代替ルートとして訪れた八ヶ岳は、一般登山者からアルパインクライマーまで広く受け入れるとても懐が広い山域であると感じた。強風のため、今回はチャレンジ出来なかったバリエーションルートにもチャレンジしてみたい。

もちろん、本命ルートであった塩見岳にも。リーダーを務めていただいたA屋さん、サブリーダーとして全般的に的確な助言をいただいたI橋さん、おいしい共同食を準備してくれたI藤さん、本当にありがとうございました。平成29年、最高の締め山行になりました。またどこかの山に登りましょう！